（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曽における森林ハブ拠点の創造のスタートアップ事業
事業主体 （連絡先）	株式会社ソルトターミナル （連絡先窓口：高浜）
事業区分	産業振興、雇用拡大（ウ森林づくりと林業の振興）
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,710,000 円（うち支援金：5,000,000 円）

事 業 内 容

１：森林における観光コンテンツ発掘事業として、旧楢川中学校跡地を活用し、今後森林啓蒙や興味喚起のために実装すべき体験コンテンツ（森林散歩、薪割体験、焚火体験、BBQ 体験、植林体験、、苗木創り体験）を実施

２:森と都市を繋ぐ森林ハブ連続スクーリング事業として、4 回にわたり、課題を学び、森の未来を考え、アクションプランを練り上げる交流ワークショップ開催、旧楢川中学校、inadani sees、スナバとの３拠点連携も実施。

３：ウエブ媒体をデザイン・制作。2026 年 10 月開業「yama-niwa」の開業にむけたブランディングとともに、「山に学び山に遊び山に働く」このイメージを伝えるティザーサイトを２月より公開。

（活動写真）

【権兵衛峠にて植樹イベント】

【目標・ねらい】

① 伊那谷木曽谷フォレストバレー構想の深耕（3 拠点連携体制構築）
② 官民含めた多様な主体連携による山や森の循環の仕組構築

事 業 効 果

〇県が掲げる「木曽谷伊那谷フォレストバレー構想」に対し、3 拠点連携しながら、延べ人数４６０名もの、交流人口を創造。運営体制構築においても 3 拠点連携構築。
（観光訪問の多い奈良井宿の旧楢川中学校活用事業で伊那谷「㈱やまとわ」が新会社を立上げ運営体制構築、都心部「スナバ」「inadanisees」では運営体制人材募集告知連携）
〇官民連携の山の循環の仕組を構築（権兵衛峠付近の山を、市・県が経営計画変更、企業が主伐、活用、地元奈良井区組織が苗木をつくり、再造林の仕組。（旧楢川中学校のプール跡地を活用して構築、令和 7 年で 3000 本の育成に成功。）

※自己評価【　A　】

【理由】本事業で行った 3 拠点連携体制、官民連携体制、による旧楢川中学校活用事業の運営や山や森の循環の仕組が構築できた為

今後の取り組み

今後の事業展開としては、本事業にて、「木曽谷伊那谷フォレストバレー構想」の深耕として、3 拠点連携体制を構築したが、特に、旧楢川中学校跡地活用事業を「yama-niwa」として、2026 年 10 月に開業予定であるが、その運営体制として、伊那谷で活躍する「㈱やまとわ」が新会社を立ち上げて運営体制を構築していく。また、都心部で、その告知やブランディングを展開していくための連携拠点として、塩尻市「スナバ」や伊那市「inadanisees」との連携運営体制を引き続き構築していく。
財源確保としては、「yama-niwa」施設の開業後において、施設からの収入をもとに、本事業で開発し試行した、山や森を活用していくコンテンツを、地域の来訪者に対して展開し、さらなる交流人口の拡大や、山や森、山村地域へ興味や関わりを持ちたい方を増やし移住などの促進も図っていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある